

第29期第11回目録委員会記録

第11回委員会

日時：2004年3月27日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：永田委員長，平田，古川，増井，松井，横山

<事務局> 磯部

[配付資料]

1. 第13章継続資料 [案] (23ページ-A4, 原井委員)
2. 第13章以外に関連する変更 (1枚-A4, 原井委員)
3. 付録 用語解説 [案] (1枚-A4, 原井委員)
4. 第2章 (和古書・漢籍を含む) (案) (29ページ-A4, 増井委員)
5. 第3章 (改訂案) (12ページ-A4, 増井委員)
6. 第29期目録委員会記録No.10 (5ページ-A4, 事務局)
7. 第29期目録委員会 [名簿] (1枚-A4, 事務局)

[連絡事項]

1. 『書誌レコードの機能要件』について
3月20日付で発行し，各委員に配布した。
2. 目録委員会ウェブページのリンク集について
第一段階として「目録規則」に的を絞る。平田委員が案を作成する。第二段階としては，MARC等のマークアップ言語が考えられる。
3. ISBD(ER)について
2004 revisionのドラフトが公表され，5月1日を締切として意見を募っている (http://www.ifla.org/VII/s13/guide/isbder_ww2-1-04.pdf)。横山委員が意見案を作成する。
4. 第13章，第2章・第3章改訂の刊行について
 - 1) 第13章
 - ・各委員は，4月10日を締切として原井委員に意見を提出する。
 - ・最終案および用語解説案をPDF形式で目録委員会ウェブページに掲載し，意見を募る。
 - ・ウェブページ掲載について，『図書館雑誌』5月号（5月中旬刊行予定）のニュース欄およびメールマガジンで広報する。事務局からJLA内の担当者に連絡する。

- ・掲載および広報にあたり，前文（説明）が必要である。
- ・田窪直規氏（近畿大学）宛「日本目録規則1987年改訂2版(NCR87-2R)第13章の改訂について（回答）」（2003年10月10日）をあわせて掲載する。
- ・最終案に対する意見の締切は，広報から3か月おいた8月末とする。
- ・9～10月の刊行を目途とする。

2) 第2章・第3章

- ・今回の改訂は和漢古書に関する部分のみとし，2章全体の改訂は別途行うことを明示する。
- ・スケジュールは13章よりも少し遅らせる。最終案の公開は5月を目途とする。

5. その他

坂本博氏（国立国会図書館）宛「日本目録規則NCRに係る要望について（回答）」（2003年12月25日）を目録委員会ウェブページに掲載する。

[検討事項]

1. 第13章改訂案について

資料1-3に基づき，次の指摘および討議が行われた。

- ・13.0 4行目「統合されている」がわかりにくい。integratedの訳語だが，できればほかの表現にしたい。
- ・13.0 6行目「完結を予定する資料のうち，」を削除する。
第2段落は文章が長く，第1段落と対になっていることが一見して理解しにくい。
- ・13.1.1.1D 本タイトルの選択にあたってはいかなる場合もこの優先順位に従うことと，この部分が13.0.4.1と矛盾しないことが確認された。
- ・13.1.1.3 9行目以降を次のように修正する。「更新資料では，本タイトルにどのような変化が生じた場合も新たな書誌的記録は作成しない。本タイトルの記録を変化後のタイトルに改める。」 13.0.2.1Aおよび13.7.3.1カ）も同様に修正する。
「書誌的記録」と「記録」が混在しており，書誌レコードのレベルとフィールドのレベルを混同するおそれがある。
本タイトル部分のみ改めることを強調したい。
- ・13.1.1.3 末尾の参照「13.7.1.1」を「13.7.1.1A」に修正する。
- ・13.1.1.3Aキ）「本タイトル」のあとに「（総称的なタイトルの責任表示を含む）」を追加する。13.1.1.3Bサ）も同様に修正する。

13.1.1.3Aのただし書き「13.1.1.3Bに示す場合に該当するときは除く。」だけではわかりにくい。小さな変化の場合は13.1.1.3Bに該当することを示す必要がある。

本タイトルとするもののなかに「総称的なタイトル+団体名」があることを明記する必要がある。

NDLの「第13章適用細則」（『全国書誌通信』no.117）では，団体名の軽微な変化として「本タイトル中に含まれる編者や出版者等の同一団体の名称の表記が微細に変化

したとき…総称的な語の本タイトルで、責任表示に記録された団体名が次のように変化したとき…」（13.0.2.1Bオ）およびカ）を挙げている。現在の案13.1.1.3Bサ）だけではこの種の場合をカバーできていない。適用細則を参考に項目を追加する必要がある。NIIでは、以前は重要な変化としていたはずだが、今は軽微な変化とみなしているのではないか。

- ・13.1.5.1B 編者名として表示されていなければ責任表示は補記ではないかとの疑義がされたが、過去に「情報源に表示されていれば補記としない」と決定しており、案のままとすることが確認された。
- ・13.4.2.2A 冒頭を「出版者と頒布者の双方が資料に表示されていないときは、」と修正する。
- ・全体について、英数字はすべて半角とする。
表記のとおり記録することが原則だが、現在の出力形式は半角がほとんどであり、規則はそれに合わせている。
例示部分は特に注意が必要である（例：13.1.1.1など）。

2. 第2章和古書・漢籍について

増井委員から資料4について説明があった。

- ・前回の検討結果を反映した。
- ・例示にスペースを追加した。
- ・今回の案には既存の例を入れていない。ウェブページに掲載するとき、追加する必要があるかを検討し、現状のままとすることとした。
- ・2.1.1.2B, 2.1.1.2C, 2.1.1.2D, 2.1.5.2G, 2.5.3.2E（古）, 2.7.4.4ケ）コ）, 2.7.4.5キ）, 2.7.4.7を、資料4の下線部のとおり修正した。

これについて次の指摘および討議が行われた。

- ・2.0.2.1C（古） 「記述対象」を「個別資料」に修正する。
「記述対象」は論理的に無理がある。一方『書誌レコードの機能要件』の「個別資料」はまだ定着していないので、「図書の1点（1冊の場合と多巻もの場合がある）ごとに」はどうか。
1点はわかりにくいうえ、1.10.0で物理単位の説明として使用している。
「個別資料」を採用し、用語解説に出す。
- ・2.0.3.2B 「必要な」を削除する。
- ・2.0.6.3A 冒頭に「和古書、漢籍については、」を追加する。「推読した」を適切な語句に修正する。
- ・2.1.1.1A（古） 5行目「入れて」の「て」を削除する。
- ・2.1.1.2C 3行目「それぞれの著作のタイトル」のあとに「と責任表示」を追加すべきかとの意見があったが、ここはタイトルについて述べている部分なので案のままとすることが確認された。
- ・2.1.1.2D ア)イ)は選択肢か、あるいは判断して振り分けるのかとの疑義があり、判断して振り分けるものであることが確認された。
他の著作との関係が重要で、ア)は対等な関係の場合であり、イ)は主従関係がは

っきりしている場合である。判断にあたっては、表示以外に作品としての重要性を考慮する必要がある。

総合タイトルについて、目録作成者が本タイトルとみなしたら角がっこは必要ないのではないかとの意見があったが、複数の表示から選んだ結果ならば角がっこは必要であると確認された。例を確認し、角がっこが必要な場合のものに修正する。

2.1.1.2Dで挙げている例はすべて完本であり、合綴ではない。

- ・ 2.1.1.2Dア) 例示で1件が2行にわたるときは、2行目以降を1字下げる。
- ・ 2.1.1.2Dイ) 2行目末尾「して選択」を削除する。
- ・ 2.1.5.2Eア) (古) 「和古書の責任表示における居住地、漢籍の責任表示における郷貫、号、字など」と順番を入れ替える。
- ・ 2.5.3.2E(重複, どちらも) 2.5.3.2CおよびDの任意規定とし、内容を振り分ける。
- ・ 2.5.3.2E(前) 「縦、横の順で」部分は、2.5.3.2Cを意識し「常に」などの語句を挿入する。
- ・ 2.7.4.4コ) 「出版の地域や時期を示す用語」とは、研究で用いられる用語の意であり、目録作成者が勝手に創作してはならないことが確認された。
- ・ 2.7.4.5キ) 例示「綴じ」の「じ」が必要かどうか確認する。
- ・ 2.7.4.5ク) 「また」を削除する。
- ・ 2.8.1.1B 末尾に「する」を追加する。

3. 第3章和古書・漢籍について

増井委員から資料5について説明があった。

- ・ 前回の検討結果を反映し、下線部のとおり修正した。
- ・ 一枚ものに関する部分が未修正である。
- ・ 既存の例を検討し、和漢古書にもあてはまるものは削除した(例: 3.4.3.2Aの出版年)。和漢古書に関わる条項に移したものもある。
- ・ 3.7.3.4ア) これまで想定されていなかった「書写者不明」の場合を追加した。

これについて次の指摘があった。

- ・ 3.1.4.2 例示の「;」を「:」に修正する。

本章については、次回の委員会で集中的に討議する。

[次回以降の予定]

4月24日(土) 12:00~15:00

昼食を希望する場合は事務局に申し出ること。会費制。

5月29日(土)

6月19日(土)

以上